

アナログとデジタルを融合し 勤務日数や時間が頻繁に変わる 警備員の給与業務を効率化



導入の狙い

- ・人事給与業務の効率化
- ・勤務時間などの変化への柔軟な対応
- ・高齢の警備員に配慮した環境の整備

導入システム

- ・基幹業務システム
『SMILE V 2nd Edition 人事給与』
『有給付与オプション』

導入効果

- ・有給付与の処理が半月から1日に短縮
- ・住民税や社会保険の効果的な管理が実現

USER PROFILE

日本機動警備システム株式会社

【業種】警備業

【事業内容】雑踏警備、常駐警備、機械システム警備、機動パトロール警備、警備立案および警備診断など

【従業員数】約100名(2024年5月現在)



2024年5月取材

日本機動警備システム株式会社は、千葉県を中心に事業を展開している総合警備会社だ。『SMILE V 2nd Edition 人事給与』を活用して、勤務時間や勤務日数が頻繁に変わる警備員の人事給与業務の効率化を図っている。さらに、『有給付与オプション』を活用して、これまで準備等含めて半月かかっていた有給付与の処理が1日で完了するようになり、大幅な業務改善を実現した。出退勤管理は電話連絡で行うなど、高齢の警備員も働きやすい工夫を施すことで、システムとアナログをうまく組み合わせで職場環境を整えている。

多種多様な警備員の勤務条件に対し、『SMILE V 2nd Edition 人事給与』『有給付与オプション』で効率的な人事給与管理を実現

千葉県で幅広い警備事業を展開 50年以上の豊富な実績を誇る

日本機動警備システム株式会社（以下、日本機動警備システム）は、1971年の創立以来、1～4号の4つの区分に分かれる警備業務すべてを網羅し、千葉県全域で幅広い警備事業を展開している。本社は千葉県船橋市だが、実質的な運営は千葉市中央区の管制センターが担い、そちらで警備員との連絡や出出勤管理などを集中的に行っている。

警備業務の内容は、実に多岐にわたる。例えば「雑踏警備」では、各種イベント（花火大会、運動会、祭礼、催し物）などで混雑する場所に警備員を派遣し、人や車両の案内・誘導を行い、安全の確保と事故の発生を防止する業務を実施する。「常駐警備」では、工場や事務所、駐車場などの施設に警備員が常駐して盗難や火災などの事故発生を警戒しつつ、適正な業務の遂行に努めている。

また、「機械システム警備」では、住宅やスーパーマーケット、工場や駐車場、公共施設などの敷地内に設置された管制センサーから送られてくる異常情報を自社の管制センターで受け取り、何かあれば即座に緊急対応員を派遣して対処する。日本機動警備システムでは千葉県内に3カ所の待機所を設置して、不測の事態が発生したときには最寄りの待機所から警備員が自社車両で迅速に対応できる体制を整えている。

「機動パトロール警備」は、機械システム警備では警戒できない箇所を警備員が巡回することで防犯レベルを強化し、不測の事態に速やかに対応している。

さらに同社では、警備



千葉県全域で、港湾施設の警備を含め、広範囲な警備業務を行ってきた豊富な実績を誇る

立案および警備診断なども行っており、顧客の需要に応じて監視カメラを通じた警備を行うなど、的確で万全な警備体制を提案している。

代表取締役の大野 八十吉氏は、「千葉県だけで警備会社は500社ほどあります。その中で当社の強みは、港湾施設の警備を含め、地元、千葉県で50年以上の長きにわたって広範囲な警備業務を行ってきた豊富な実績と、これまでに培ってきた信頼関係です。人材教育にも力を注いでおり、入社時にしっかり教育するとともに、毎年10時間程度の集合研修を社内で行っています。人にはそれぞれ得手不得手があるので、それを見極めながら警備員の配置をしています」と説明する。

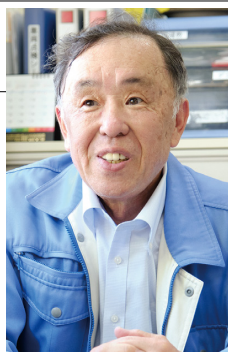
さまざまな勤務パターンが 給与計算の障壁に

近年の警備業界共通の課題として、警備員の高齢化が急速に進んでいることが挙げられる。従業員のうち65歳以上の高齢者が4分の3を占める同社も例外ではない。警備業務自体に支障はないが、全員がスマートフォン等を使いこなせるか、ということになるとなかなか難しく、勤怠管理での障壁となっていた。

同社では、約100人の給与計算を毎月20日締め月末払いで行っている。管理職や事務職は固定給である一方、全体の9割を占める警備員は、働いた時間や日数に応じて対価を支払う日給月給制なの

代表取締役
大野 八十吉氏

「警備員は日給月給制で勤務先や勤務時間が頻繁に変わります。そのため、ITの仕組みを効果的に活用しながら人事給与業務の効率化を図ることは、警備業界の共通の課題の一つです」



総務部課長
尾崎 則子氏

「OSKのサポートセンターの対応は、とても充実しています。自分だけではなかなか気付けない便利な機能を使った具体的な活用方法をわかりやすく教えてくださるので、本当に頼りになります」



で、さまざまな勤務パターンを持つ。そのため、人により異なる勤務の管理作業が煩雑化していた。

「警備員の勤務先は頻繁に変わります。そして、一般的な勤務時間は8時～17時ですが、違う時間帯のところもあれば、勤務日数が週5日の人や、週3日の人もいます。そのように個人ごとにまちまちな情報をすべて間違いのないように管理していくのは、非常に細かくて大変な作業です」と語るのは、総務部課長の尾崎 則子氏だ。

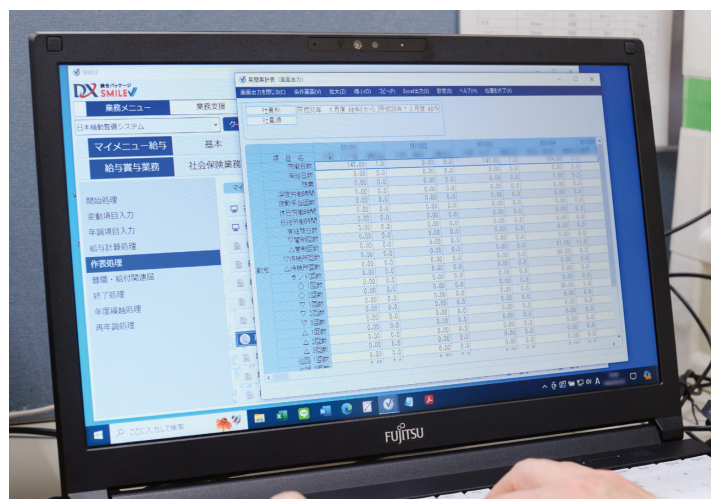
基本的に警備員は直行直帰で業務し、本社でタイムカードを打刻することはない。そのため警備員の出勤記録は、出勤・退勤時に管制センターへ電話連絡してもらい、それを本社の社員が勤怠予定一覧表に手書き記入する運用で管理している。以前はこの一覧表を基に給与計算も手作業で行っていたため、事務スタッフの負担も大きく、計算ミスなどのリスクも高かったという。

そのように煩雑な作業の解消を目指して、同社は2014年に『SMILE BS 2nd Edition 人事給与』を導入して給与計算をシステム化した。その後、2018年には『SMILE V 人事給与』、2023年2月には『SMILE V 2nd Edition 人事給与(以下、SMILE V2 人事給与)』へと切り替えながら利用を続けてきた。『SMILE V2 人事給与』切り替えのタイミングでは、OSKの提案を受けて『有給付与オプション』を追加導入し、有給管理の効率化を図っている。

高齢者のITリテラシーを考慮し 出退勤管理で独自の工夫を施す

警備員の大半を占める高齢者のITリテラシーを考慮して、同社では電話による出退勤の報告を続けながらも工夫を施している。

具体的には、警備員から出勤時と退勤時に管制センターに電話がかかってきたら、センターの担当者はその情報をExcel作成の「管制シート」(警備員の勤務予定一覧



『SMILE V2 人事給与』で給与管理することで、本社での従業員管理の負担を大幅に軽減している

表)に手書きで記入する。その後、毎月20日に警備員が提出する「消化日程表(警備員が記録する勤務記録表)」と照らし合わせて、間違いや記入漏れがないかチェックする。それから、『SMILE V2 人事給与』に勤務データを入力して給与計算を行っているのだ。

警備員が各自で記入する「消化日程表」は、手書き用紙とExcelシートの2パターン用意している。Excelで入力した場合はそのファイルをメール送信で提出してもらうようにしているが、手書き用紙をFAXで送信、あるいは毎月持参してくる人の方が圧倒的に多く、二重入力の解消には至っていない状況だ。また、給与明細書についても、現金手渡しと郵送が半々だという。

アナログ的ではあるが、高齢の警備員にとっては、スマートフォンの操作方法を覚える負担がなく、マイペースで仕事ができる働きやすい職場環境だといえる。この従業員ファーストが、安定した事業継続の軸になっていると大野氏は話す。

一方、給与業務については、『SMILE V2 人事給与』の新機能を含めた活用によって、作業効率が高まっているが、その一因としてOSKのサポートセンターの存在が大きいと尾崎氏は強調する。

「給与業務の担当は私ひとりなので、自

分なりにいろいろ工夫しながら活用しています。しかし、自分だけでは解決できない場合や困ったときは、OSKのサポートセンターに電話をかけて相談しています。当社の実情を深く理解されている担当者がとても親身になって対応してくださるので、毎回、とても助けられています。おかげで徐々に、作業効率がアップしていると感じています」(尾崎氏)

有給付与作業が半日から1日に オプション追加で大幅改善

今回の『SMILE V2 人事給与』のバージョンアップでは、追加導入した『有給付与オプション』が特に顕著な業務改善効果をもたらしている。こちらは、OSKのサポートセンターに相談している中で提案を受けて導入を決めた、という経緯がある。

「警備員は勤務時間や勤務日数が皆バラバラなので、有給休暇の管理も大変です。以前は、警備員の勤続年数や年間の労働日数などをExcelのシートに書き込み、翌年の有給休暇の日数を算出していました。週5日の人は赤、週4日の人は黄色などと色分けをしてひと目でわかるように工夫もしていましたが、年度の途中で勤務日数が変わる人も多くて、本当に手間でした」(尾崎氏)

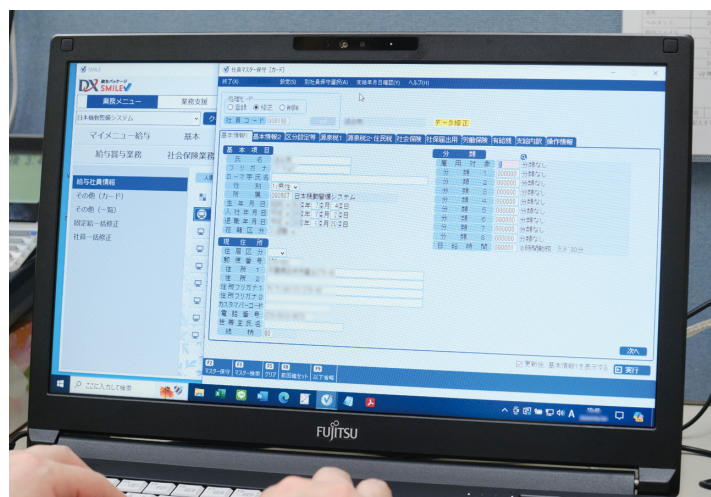
この長年の悩みは、『有給付与オプション』の活用で、一気に解消されたと尾崎氏は言う。警備員の入社年月日や勤続開始日から算出した勤続期間と有給付与パターンを基に、有給休暇の日数を自動的に算出できるようになったのだ。

「従来は、毎年4月に半月近くかけて有給休暇を算出していましたが、それが今では、わずか1日で完了します。労働基準監督署から有給休暇を付与した書類の提出を求められたときもすぐに出力して対応できるし、その分、ほかの仕事に時間を費やせるので、本当に助かっています」(尾崎氏)

従業員の住民税についても、以前よりも簡単に管理できるようになったという。

「年度途中で従業員が退社した場合、何月まで住民税の徴収済みか、残額はいくらか、を調べたうえで、自治体に給与所得者異動届出書を提出することが必要になってきます。この処理は、退社月によって作業内容が異なってくるため、非常に面倒でした。でも、『SMILE V2 人事給与』なら、住民税を月別で管理できるので、これまでの徴収額や残額が即座にわかり、自治体への提出物もすぐに作成できるので、とても便利です」(尾崎氏)

ほかにも、『SMILE V2 人事給与』は管理できる項目数が多いこと、データをExcelに出力して加工できる点などを尾崎氏は高く評価している。おかげで、従業員



『SMILE V2 人事給与』の社員情報登録画面。『有休付与オプション』を活用することで、有休休暇の算出が飛躍的に早くなった

の社会保険の管理なども効率的に行えるようになったという。

現在は電話連絡というアナログな方法で勤怠管理を運用しているが、最近ではスマートフォンでSNSなどを利用する高齢者も増えつつある。同社も今後の展開として、スマートフォンを活用した出退勤管理のデジタル化も視野に入れて行きたいと締めくくった。



日本機動警備システム株式会社のホームページ
<http://www.j-kidou.co.jp/>

お問い合わせ